



春の庄原を彩るイベント

第7回庄原さくらフェスティバル・4/9

上野総合公園を中心に、桜花の郷ラ・フォーレ庄原、食彩館庄原ゆめさくら、上野池で「第7回庄原さくらフェスティバル」が開催され、子どもから大人まで約13,500人が来場しました。

さくらフェスティバル実行委員会が主催するこのイベントに、過去最多となる94店舗が出店し、飲食物や雑貨の販売、ワークショップ、各団体の活動紹介などが行われました。

上野池では、SUP体験（ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進む水上スポーツ）も行われ、参加者は緊張しながらもボートを漕ぎ、池の中から見えるいつ



▲多くの来場客でにぎわう会場（上野総合公園）

もと違った景色を楽しんでいました。

また、市内の学生が主体となって運営するキャンパスエリアが、今回初めて設けられました。各学校のブースでは、コーヒーの提供や写真部の作品展示などが行われたほか、神楽の上演や吹奏楽の演奏などのステージイベントも行われ、終日大盛況でした。

来場者は「子どもから大人まで楽しめるイベントがたくさんあって良かった。天気も良く、遊具もあったので、子どももとても喜んでいて」とうれしそうに話しました。



▲上野池で SUP 体験

里山の季節を告げる

下領家のエドヒガンが開花・4/3

No.3

総領町下領家地域で、広島県天然記念物に指定されている、樹齢500年の桜の木「下領家のエドヒガン」が花を咲かせました。

この桜の開花は、稲のもみをまく目安とされていたため、地域では「たねしろざくら」とも呼ばれています。

周辺には、今では希少となったニホンタンポポなども自生しており、ふるさとの変わらぬ姿を見ることができます。

エドヒガンの管理をしている田邊汎通さんは「4月上旬からきれいな花が咲き始め、たくさんの人が見に来てくれた。市街地からは離れているが、観光の集客につながってほしい」と話しました。



▲開花したエドヒガン

街道東城路がにぎわう

東城まちなみ春まつり・4/1～4/4

No.2

東城町に春の訪れを告げる「東城まちなみ春まつり」が、3年ぶりに開催されました。

オープニングセレモニーでは、東城中学校吹奏楽部の生徒による演奏や、東城ゆかりの人による春まつりライブ、生け花パフォーマンスなどが行われ、観光客などたくさんの人でにぎわいました。

また期間中は、夢街道ルネサンス認定地区「街道東城路」沿いの商店や民家に、生け花や各家に代々伝わるひな人形などが飾られ、町の景色を鮮やかに彩りました。

訪れた観光客は「桜が満開の中、貴重なひな人形が見られて良かった」と話し、まちなか散策を楽しんでいました。



▲東城まちなか交流施設「えびす」で春まつりライブ



遊歩道に温かな灯がともる

夜桜のライトアップ・3/30～4/20

No.8

西城町観光協会が西城の魅力を発信するため、夜桜のライトアップを行いました。

ライトアップは、西城ふれあいセンターから蓮照寺を結ぶ遊歩道で行われ、ソメイヨシノやしだれ桜などの桜を、温かな光で照らしました。

期間中には、夜桜を一目見ようと多くの観光客や地元住民が訪れ、電灯の明かりに照らされた桜と西城川を流れる水の音とのコラボレーションを楽しんでいました。

夜桜を見に来た観光客は「毎年、桜のライトアップを見に来ている。風情ある景色にいつも癒やされている」と笑顔で話しました。



▲遊歩道で夜桜のライトアップ

災害に備えて

常定自治会が防災訓練を実施・4/2

No.10

口和町常定自治会が防災訓練を実施し、地域住民20人が参加しました。

この訓練は、災害が多発する6月を前に、防災意識の向上を図るために実施されました。

当日は、防災士の資格を持ち、常定自治会長でもある福田豊明さんが災害発生時の避難行動の説明を行い、その後大雨などで停電になった時に備えて、電気を使わずにカセットコンロとポリ袋を使って、白米を炊く訓練を行いました。

福田会長は「災害発生時においしいご飯を食べると、心が勇気づけられる。被災時には身の回りにあるもので対応しなければならないので、こうした知識を役立ててほしい」と話しました。



▲福田会長が防災について説明

農業の発展に大きく貢献

「緑白綾有功章」の受賞を市長に報告・3/31

No.7

高野町の島津宏さんが、農事功績者へ贈られる「緑白綾有功章」を受賞し、木山耕三市長に報告しました。

この賞は、農業改良の奨励または実行上顕著な功績を上げ、地域農業の発展に貢献する農業経営者を対象に、公益社団法人日本農会が選定するもので、本年は全国で55人が受賞しました。

今回の受賞は、わい化栽培（木を小さく作る技術で早期多収や作業効率が良い栽培）をはじめ、雪害・台風に対応するための先進技術の積極的な導入や、広島県指導農業士会会長として、農業の担い手育成に尽力したことが高く評価されました。



▲木山市長（左）と島津さん

G7に合わせてPR

期間限定ショップ「UCHIRA」・3/31～5/7

No.9

SHIMINT HIROSHIMA（旧広島市民球場跡地）を会場に、G7広島サミット県会議期間限定ショップ「UCHIRA」が開設されました。このイベントは、G7広島サミットの開催に当たり、県内市町それぞれの魅力をPRするために実施されました。

期間中は県内19市町が交代で、特産品や工芸品などの販売を行い、本市では、道の駅等連絡協議会やJAひろしまが中心となり、4月10日から13日まで、比婆牛丼やブランド米、アップルパイなどの特産品を販売しました。

来場者は「庄原市ならではのものが、たくさん買ってうれしかった。今度は実際に庄原を訪れてみたい」と話しました。



▲買い物を楽しむ来場者

15の芸能・音楽団体が華やかに競演

けんみん文化祭備北地区フェスティバル庄原大会・3/19

No.4

「けんみん文化祭備北地区フェスティバル庄原大会」が、東城文化ホールで開催されました。

この大会は、「けんみん文化祭ひろしま」の地区予選を兼ねて開催されており、県内の豊かな自然と伝統に育まれた文化の発掘、継承、育成を図ることを目的に、県民の文化活動の発表、鑑賞、交流の場として平成3年から開催されています。

コロナ禍のため4年ぶりの開催となった今回は、庄原市文化協会に所属する合唱、大正琴、邦楽、日本舞踊などの団体や、東城高校吹奏楽部など、市内の15団体約170人が出演し、多彩なステージが繰り広げられました。

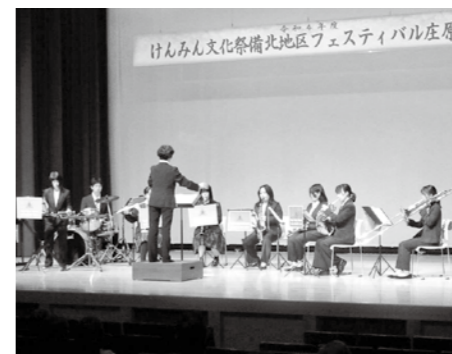
閉会式では審査結果が発表され、6部門で「けんみん文化祭ひろしま'23」への出場団体が決定しました。



▲（邦楽部門）「教友会」「美春会」による演奏



▲（日本舞踊部門）花柳銀扇会による舞踊



▲（吹奏楽部門）東城高校吹奏楽部による演奏



▲（合唱部門）東城コールエコーによる合唱

ボランティアで街をきれいに

市役所本庁舎駐車場でボランティア活動・4/12

No.6

庄原市シルバー人材センターの会員が参加し、市役所本庁舎駐車場の環境整備が行われました。

同センターは、地域貢献活動として、地区別に班を設けて市内各地の草取りや清掃活動を行っています。

当日は、庄原地区班の9人が花壇の土の入れ替えや草取り・葉切りを行ったほか、シバザクラやバーベナなどの夏の花を植えました。

作業中は、和気あいあいとした雰囲気でも、お互いに話しながら精力的に取り組んでいました。

参加した中村勲さんは「これからは見頃となる鮮やかな夏の花を市役所に訪れる人に見ていただき、ホッとしていただけたらうれしい」と話しました。



▲庄原地区班の皆さん

子どもたちが料理に挑戦！

春休みこども料理教室・3/28

No.5

比和自治振興センターで、庄原市社会福祉協議会比和地域センター主催の「春休みこども料理教室」が開催され、比和小学校の児童7人が参加しました。

この教室は、地域と子どものつながりをつくることと、食への関心を持ってもらうことを目的に、企画・開催されたものです。

地域マネージャーの荒木真由美さんが講師となり、児童が協力して、ツナやサバの缶詰を使った炊き込みご飯や、比和のそば茶を使ったパンナコッタ、お湯に溶かすとみそ汁になるみそ玉などを作りました。

児童は「そば茶を使ったパンナコッタがおいしかった」「ニンジンの皮むきが楽しかった」と話しました。



▲みそ玉の分量を慎重に計る児童